

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市芦の口児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和6年度 17,407人(前年度比 111.9%) ・令和5年度 15,549人 ・令和4年度 15,357人 《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 38,320千円(35,637千円) ・ その他市が負担した費用 0千円(0千円) 《収入》 ・ 使用料収入 0千円(0千円) ・ その他収入 0千円(0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者説明会・懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	31/31
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ブログの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。地域との交流事業においては、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。 なお、おやつのお食の仕方を工夫することで、子ども自身が生活を組み立てたり、相手の意見を尊重する等、社会性を育てるとともに居室の有効活用を図ることで子どもの生活が豊かになるよう努めている。 また、子どもと職員が1対1で話す場を設けるなど、子ども1人ひとりが自己表現できる環境作りに取り組み、子どもが安心出来る生活の保障に繋がっている。	20/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘）による自己評価》
令和6年度も引き続き「保護者支援」をテーマに児童館・児童クラブ運営に取り組みました■児童健全育成事業■放課後、小学生や中学生が来館し児童クラブの子どもたちと仲良く遊ぶ姿が見られました。特に、月に1回開催の「やってみよう」では味噌づくりや藍染めなど普段できない体験を行うことができました■子育て支援事業■助産師さんの個別相談「ことりる一む」では相談にのりながら日々子育てに励んでいる保護者に寄り添い、励ましてきました。「保護者支援」の一環としての「ゆきちゃんのヨガタイム」は子育て中のお母さんにリフレッシュしてもらいたいという気持ちで子育て支援クラブの方々に見守り託児をお願いし大変好評でした■地域交流推進事業■子育て支援クラブあしっこは行事の主催や児童館との共催行事を行う他「野菜・花育て隊」を毎週水曜日に実施し、種まきから収穫までを楽しみました。ヨガやその他の乳幼児親子行事では、見守り託児を職員と一緒に、今年度初めて実施した「あしっこサロン」で児童館を利用する方々の子育て相談など積極的に関わっていただきました。また、芦ノ小おやじの会との交流もしました。地域の和太鼓グループに月に1回和太鼓ミニ体験会で和太鼓を教えていただき、「新年を祝う会」の共催も行いました。その他近隣の5児童館で夏休みチャレンジングに取り組みました■放課後健全育成事業■児童が放課後、安心して過ごせる物的・人的環境を整えるには子どもを理解することからとの考えに基づき「自分プロフィール」「おしゃべりサロン」を実施しました。また、保護者面談や保護者同士の交流を目的にした「遊びの体験会」では、子どもをまん中に大人がつながることを重要視しました。さらに、小学校とは長期休業日は校庭や体育館をお借りしたり担任との情報交換会を通して支援の協力体制を築きました。今後も保護者・地域・小学校などと連携した運営を行います。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
児童健全育成事業においては、小学生対象の「やってみよう」と「エンジョイサタデー」を定期開催し、味噌作りや藍染めなどの体験型の活動や制作活動を通して、子ども達の豊かな人間性や自ら学び考える力を育てている。また6年生が児童クラブの低学年との遊びや職員との関わりを求めて日常的に来館して交流が図られており、地域における子ども達の居場所となっている。 子育て家庭支援事業においては、0歳児を対象とした「まめっちょひろば」を開催し、歯科衛生士による虫歯の話や地域のボランティアによるベビーサイン、わらべうたなど多様なプログラムを提供し、保護者が育児の知識を得るとともに親子の触れ合いや、保護者同士の交流の場となっている。また子育て支援クラブと職員の託児により定期開催している「ゆきちゃんのヨガタイム」は保護者のリフレッシュと情報交換の場となっており、参加者から好評を得ている。 地域交流推進事業においては、天地芦鼓連の方々との協力による和太鼓ミニ体験会を毎月開催し、乳幼児から中高生世代、地域の方々に参加している。子どもと地域の方が直接交流できる機会を設けて、地域全体で子どもの育ちを支える環境作りに取り組んでいる。また、子育て支援クラブと共催で「野菜・花育て隊」を実施し、世代間交流を通した小学生の豊かな自然体験や食育体験の場を提供している。 放課後児童健全育成事業においては、おやつ時間を14時から設定し、食べる時間を自分で決めて予約するシステムを導入し、子どもが主体的に生活できるように支援している。また、子どもが思いを表現できる環境作りへの取り組みとして、「自分プロフィール」の作成や子どもが職員と1対1でゆったり過ごせる「おしゃべりサロン」を実施し、子ども達が安心できる生活の保障に繋がるとともに、保護者との連携にも活かされている。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課